

野点のような感覚を伴う開口部のしつらえ

所在地：兵庫県  
 設計・総合：木原千利設計工房  
 構造：天野一級構造設計事務所  
 施工：明石土建工業  
 構造/規模：木造軸組構法/2階建  
 面積：(敷地) 2,226.15㎡  
 (1階) 132.92㎡  
 (2階) 95.30㎡  
 (延床) 228.22㎡  
 竣工：2009年10月

屋根の構成：ガルバリウム鋼板t0.4  
 立て平葺き  
 アスファルトルーフィング22kg  
 屋根ボードt8  
 完全防水ベニヤt15  
 硬質発泡ウレタンt30  
 垂木60×60@330  
 完全防水ベニヤt15  
 グラスウールt50  
 垂木90×60@330  
 構造用合板t24



北西側に位置する和室8畳。内法高さ4尺3寸5分の窓が一部矩手に回り込む

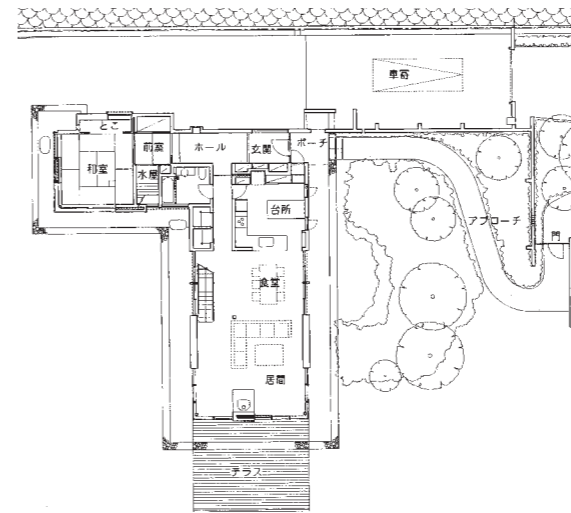
住宅について

国立公園内に開発された住宅地の一角、背面の隣地以外は周囲を木々で囲まれた敷地に建つ夫婦と子供一人のための住宅である。毎日「自然の中にいるがごとく」の暮らしを求め、開口を大きくとり、各室が透けて繋がる広々とした空間としている。また南西の崖側に張り出した建物の2階先端に設けた浴室と寝室のデッキテラスからは海が眺められ、どこか保養地にいるような住宅である。また、お茶が出来るしつらえを施した和室では、コーナー二方の障子をあけると自然の中で野点をしているような感じがする。山中の暮らしの難点は冬が寒く、湿度が高いことであるが、居間に設けた暖炉と床暖房、除湿機能を備えた換気システムが功を奏し、全室大きな温度差もなく、快適な室内環境が確保出来たようである。

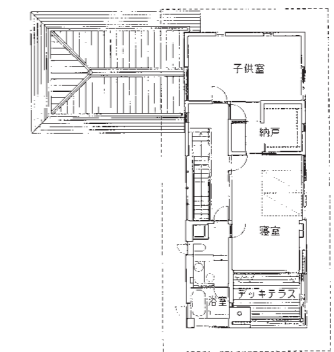
屋根と合板について

居間の窓面は3方を開放、和室は2方を開放にしたため、木造住宅耐震上に必要なコーナーの壁がとれない。通常では不安定な構造であるが、2階の床面、そして各階の屋根面のはり上に釘打ちされた構造用合板に水平力を持たせることにより、安定した構造となっている。屋根面は構造用合板の上に1重目の垂木で庇を持ち出し、2重目の垂木間は断熱と通気の機能を果たしている。2重垂木にすることにより、高い断熱性能の確保とともに樋を軒先から離して配することによるスッキリした納まりの庇、曲がりのない堅樋、落ち葉で詰まりやすい樋の屋根面からの清掃などが可能となった。

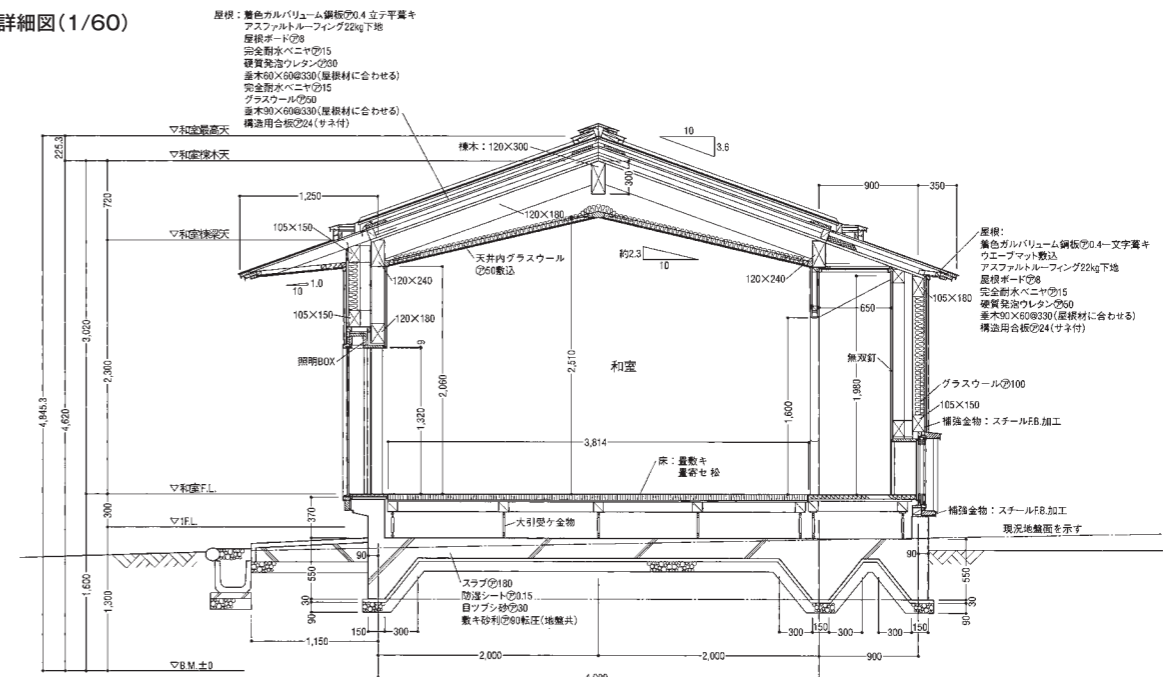
平面図・1階 (1/200)



平面図・2階 (1/200)



断面詳細図 (1/60)



階段から見る居間・食堂の吹抜け

建物外観



強度の高い屋根構面による開放的な空間

